



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
 東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
 電話 03-5315-0941
 2022年3月22日 発行人 佐藤英樹 編集人 湯ノ目亜矢子
 第734号 毎月1回20日発行/一部20円
 (組合員の購読料は、組合費に含む)

JR東労組ホームページは
 はこちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>



本部は会社回答に対して組合員の本音を聞くべく、短期間ではありましたが、3月17日から21日まで意見集約を行いました。職場からは「昇給係数4の完全実施は確認できるが当然実施すべきことであり、ベアと定昇は別である」「コロナ禍や物価上昇の生活実感に重きを置いていない」「55歳以上の組合員の奮闘に一切報いていない」「生涯賃金に影響を及ぼした昨年の定昇カット分の支給をすべき」「人材流出への危機感を感じない」「労働者に赤字の責任を転嫁するののか」「回答書には地震による復旧対応にあたる組合員に対して何も触れられていない」「あらかじめ用意された

申22号「2022年度賃金引き上げ等」第3回団体交渉 定期昇給係数4実施 ベアゼロ回答

会社回答を受け組合員の声をもとに緊急再申し入れ提出!!

定期昇給による基準内賃金の1人当たり平均増加額：6,311円 (1.97%)
 対象社員数：47,600人 (前年比▲1,300人)
 平均年齢：38.8歳 (前年比▲0.2歳)
 平均勤続年数：15.6年 (前年比▲0.4年)
 平均基準内賃金：331,020円 (前年比+223円)
 [内訳] 基本給▲279円、管理手当等+291円、都市手当+381円、扶養手当▲170円

■回答指定日に会社回答が示される!
 3月17日、申22号「2022年度賃金引き上げ等」に関する申し入れ「第3回団体交渉開催され、会社から回答が示されました。」
 その内容は、定期昇給については要求通り「昇給係数4」の完全実施を確認できたものの、ベアスアップゼロ回答の他、昨年の定昇カット分への支給、第二基本給の凍結、65歳定年制導入についても要求の実現には至りませんでした。また、その他の処遇改善などの回答もなく、私たちの要求からは、大きく乖離し到底納得できる回答ではありませんでした。したがって、第3回団体交渉席上で再考を強く求めましたが受け入れられなかったため、席上妥結せず回答を持ち帰りました。

■コロナ禍で奮闘する組合員の努力を顧みない会社回答に、到底納得できない!
 第2回交渉では、「会社発足以来、過去最低の総額人件費」「中長期的な回復動向」「運輸収入が計画を290億円上回った」「物価の上昇」「社会保険料の負担増」「年収減」など一定の認識一致をほかり、「コロナ禍における職場の努力には感謝する」「組合員の声を受け止める」などと回答するも、第3回交渉では終始「最大限出来る回答」と要求からは大きくかけ離れたものであり相反し矛盾する回答に到底納得できません。

■会社回答を受けて、組合員や未加入者から6500件に及ぶ意見を集約!
 本部は会社回答に対して組合員の本音を聞くべく、短期間ではありましたが、3月17日から21日まで意見集約を行いました。職場からは「昇給係数4の完全実施は確認できるが当然実施すべきことであり、ベアと定昇は別である」「コロナ禍や物価上昇の生活実感に重きを置いていない」「55歳以上の組合員の奮闘に一切報いていない」「生涯賃金に影響を及ぼした昨年の定昇カット分の支給をすべき」「人材流出への危機感を感じない」「労働者に赤字の責任を転嫁するののか」「回答書には地震による復旧対応にあたる組合員に対して何も触れられていない」「あらかじめ用意された

■なぜ納得いかないのか?
 寄せられた声からも多くありましたが、団体交渉でも「ベアと定昇は別である」と一貫した姿勢で議論してきましたが、年初にマスコミ報道された経営幹部の発言や第1回交渉以降の会社回答からは、賃上げ議論を定期昇給議論に切り縮めるかのような姿勢に危機感があるからです。そしてコロナ禍で業績の落ち込みはあるものの、生涯賃金が減額されている状況と物価上昇などある中で、組合員・社員に犠牲を強いるかのような会社回答は納得できません。

また、3月16日に発生した「福島県沖地震」の復旧作業は困難を極める中、昼夜問わず全力を注ぐJR東日本のすべての関係者に、私たちJR東労組は心から敬意を表するとともに、組合員・社員の安全と健康の確保を第一に、復旧作業に最大限協力する姿勢です。しかし組合員・社員は、鉄道の復旧と安全第一で安定した輸送の確保に向けてこの時間も奮闘していただいているにもかかわらず会社回答はあまりにも冷たい回答だからです。

■集約された意見をもとに「緊急再申し入れ」を提出!粘り強くたたかいて抜こう!
 本部は寄せられた多くの声をもとに、ベアスアップ6000円と昨年カットされた定期昇給分に特化した「緊急再申し入れ」を3月22日に提出しました。寄せられた多くの声、そして日々奮闘し続ける組合員・社員の努力に報い、家族を含めた生活を守り、そして将来へのモチベーションの維持・向上の実現の為に、たたかひ抜きましよう!

業務部速報 No. 144 発行 22. 3. 22 JR東労組 業務部

緊急再申し入れ その2
 【22 春闘】組合員の声を集約し「緊急再申し入れ」を行うにあたって

第3回交渉(3月17日)以降、中央本部に6,447件の会社回答に対する意見が寄せられました。短期間で多くの意見が寄せられた事に感謝を申し上げます。
 また、3月16日に発生した福島県沖地震に対し、今日も組合員・社員は復旧を行っています。そういつた安全・安定輸送の確保に対する職場の努力に敬意を込めて、中央本部は最速でたたかひ抜きましよう!

寄せられた意見の多くは、「コロナ禍での奮闘が反映されていない」「モチベーションが上がらない」という会社回答に対する不満や「物価上昇が考慮されていない」という生活を不安視する声から「再申し入れをするべき」という声でしたが、一部多く寄せられたのが、組合員の生活やコロナ禍での奮闘を顧みない経営姿勢に対する厳しい指摘でした。また、「定昇カット分の支給」や「55歳以上の組合員への賃上げ」を求めた意見も多くありました。その一方で、「定期昇給4で安心した」「満足した」と意見を寄せてくれた組合員もいました。
 中央本部は組合員から頂いた意見を受け止め、今後のたたかひについての議論を行いました。

中央本部は、本交渉と職場が一体となった取り組みにより、定期昇給の完全実施という結果は確認できるものの、頂いた組合員の声から「ベア0」という回答は組合員の生活やコロナ禍での奮闘を顧みないものであることを再度認識しました。
 定期昇給が完全実施された「安心」「満足」という組合員の意見もありますが、そもそも、JR東日本の賃金制度は年功や経験とともに上昇する年功賃金であり、組合員の1年間の努力、母体設計や生活を支えれば「定期昇給4」は実施されて当然、だと中央本部は考えています。定昇をカットする理由は、就業規則上では懲罰的な意味で、失効しませんが、

しかし、22春闘の背景は、一部の職場で管理職が「昇給係数4で頑張っている」「満額定昇」等と社員に説明していたことがわかりました。定期昇給は「賞与」ではなく会社が判断するものと言えればかなりの姿勢です。この考えでは、毎年の定期昇給が不安定となり私たちの将来設計は難しくなります。こういった経営姿勢が変わらない限り、今後の春闘を考えた場合に、定期昇給4で安心したり、満足したりはできないという懸念に繋がりました。

よって中央本部は、組合員の生活やコロナ禍での奮闘を顧みない経営姿勢を改めて、専ら生涯賃金が増えている状況と物価上昇による生活実感や不安、コロナ禍においても日々奮闘し続ける組合員・社員の努力に報い、モチベーションの維持・向上により人材流出を防ぐために、「緊急再申し入れ」を行うことを決定しました。

全組合員の皆さん!要求実現を目指し共にたたかおう!

組合員・家族の生活を守り、将来へのモチベーションの維持・向上を実現するための、2022年度賃金引き上げ等に関する緊急再申し入れ

- 申し入れ項目
- 1・年収減や生涯賃金が減額されている状況下における、物価上昇、保険料の負担増が見込まれる生活実感と、震災復旧や安全第一で安定した輸送の確保に向け、コロナ禍においても、日々弛まめ奮闘し続ける組合員・社員の努力に報い、モチベーションの維持・向上による人材の定着・確保を実現するため、以下の内容を追加実施すること。
 - ①2022年4月1日以降のJR東労組組合員の基本給を一律6,000円(定期昇給を含まない)引き上げること。
 - ②2022年4月1日以降のエルダー組合員の基本賃金を6,000円引き上げること。
 - ③2022年4月1日に実施した、満55歳未満(当時)の組合員に対する定期昇給のカット分を別途支給すること。

▼3月16日 夜に福島県 沖を震源地とする地震が発生した。発生直後、ツイッター上では新幹線が脱線したという情報が飛び交い、中にはデマかもしれないので拡散を注意しようと呼び掛ける人もいた▼デマという最近では、ロシア国内の放送においてウクライナ侵攻を「特別軍事作戦」と称して様々な報道をしていることに対して、戦争に反対するある女性が、ロシア国営テレビ局の生放送中のニュース番組に入り、「戦争を止める。ここであなた方に嘘をつくプロパガンダを信じるな」と訴えた▼このことは世界中に大きな衝撃を与え、私も大きな衝撃を受けた▼もし自分が視聴者の立場で、普段何気なく見ていたニュース・情報が、ある日突然そうだったと聞かされたら、どうなるだろうか。正直、想像がつかない▼しかし、戦争は人々に幸福をもたらすものではないことは明確だ▼だからこそ、世界中で反戦平和を訴え続けている人たちが、ロシアでも反戦平和を訴え、政府に抗し団結してたたかっている人たちが、彼らごどのように連帯していくか、私たちにどうの平和とは何かを考えて行動したい。

(S・K)